

学生の皆さんへ「令和4年度後期の始まりにあたって」（10月3日、校長講話）

おはようございます。校長の田村です。

9月28日に、クラス担任からお伝えしていただいたように、過日、一人の学生が亡くなりました。本校として、とても辛く、悲しい出来事ですが、心からご冥福をお祈りします。

ご遺族の方からは「そっとしておいてくださいますように。」という、お気持ちを伺っております。今は、最も辛い思いをしておられるご遺族のお気持ちに寄り添うことが大切です。皆さんにも、ご理解とご協力をお願いします。

人の命には限りがあります。我々は、何も無いところから生まれ、人として生きる時間を過ごして、人生の終わりという死を迎え、そして、何も無いところ回帰します。色々な宗教が、色々な表現でこのことを伝えようとしています。この世に奇跡的に命を受けた、それも、獣や虫や植物ではなく、人として誕生した、だからこそ、人として生きる時間を大切にしたいものです。

人生100年時代、ある作家が「100歳までに死ぬのは交通事故に遭うようなもの」と表現していますが、暗に「病気や事故は、未然に防がないといけません。」ということ言っておられると思います。病気や事故を防ぐためには、何をすれば良いか。考えるだけでなく、実践しないといけません。一人で考えるのではなく、友人や信頼できる大人や専門家と相談することは、とても効果的です。

生きることの意味や目的、価値を見出しながら、自分だけでなく、お互いの命を大切にしつつ、明るく楽しく幸せに生きることを目指す。そう、「より善く生きよう」ということですね。

ただ、この「よりよく生きる」の「よく」という漢字は、越前市にもある善光寺の「善」の字を当てるべきでしょう。優良可の良をあてるとは、他人と比較してしまいます。人と人、他人と自分を比較することは、役割分担を考える時には、効果的なこともあります。と、かく、損得を意識させることに繋がります。これに対して「善」という字を使った「より善く生きる」は、自分自身の生き方に対して問いかけます。善悪を自問自答した上で、善い方向に生きる道を選ぶということですね。

命ある限り、出来る限りですが、より善く生きたいものです。

さて、話は全く変わりますが、この夏の全国高専体育大会では、女子バトミントンの団体、陸上の走り高跳び、そして、水泳は100メートルメドレーリレーや個人でも全国優勝を成し遂げてくれました。また、アマチュア無線研究会は、全国高校アマチュア無線コンテストで5連覇という偉業を達成してくれました。この他にも、全国優勝こそ逃しましたが、多くの学生が優秀な成績を残してくれました。まさに、コロナにも負けずに目標に向かってしっかり頑張ってくれたということです。福井高専の名を、広く知らしめてくれたという意味でも心からお礼申し上げます。

私は、9月19日に、物質工学科2年生と一緒に石川県にある北陸電力志賀原子力発電所に見学に行ってきました。巨大な原子力発電の施設を目の当たりにして、原子力によってエネルギーを作り出し、供給することの大変さを体感しましたが、実は、私は、その3日前に、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業を視察していました。

今から11年前の2011年3月11日午後2時46分、東北地方の三陸沖でマグニチュード9.0の大地震が発生し、地震と同時に、巨大津波が発生しました。学生の皆さんも、テレビに映し出された津波の様子をご記憶かと思います。

福島第1原子力発電所では、まず、発生した地震によって震度6強の揺れを受け、外部電源が停止しましたが、この時は非常用のディーゼル発電機が起動して、正常に原子炉を停止させることが出来ました。

しかしながら、地震発生から50分後に、高さ13mの津波が、この原子力発電所に押し寄せ、非常用電源も失います。その結果、燃料棒を冷却する装置も停止しました。そして、溶け始めた燃料棒と水蒸気が化学反応を起こし、発生した水素に引火して、原子炉建屋が大爆発を起こします。福島第1原発には、高さ30mから60m程の原子炉建屋が6基ありますが、このうちの3基が、次々と水素爆発を起こします。当時、テレビでこの爆発のシーンが放映されましたが、極めて衝撃的なシーンでした。

現在、この破壊した原子力発電所全体の撤去作業が行われていますが、この作業は、とにかく放射線対策が最大の課題です。視察中も、時折、首からぶら下げた放射線計測器の警報ブザーが鳴って、緊張感が漂います。

原子力発電の問題は、人類のエネルギー・環境問題の中の一つの大きなテーマですが、これは、地球上で増加する人類が、競うようにより良い暮らしを追い求めるがために、原子力エネルギーというハイリスクなエネルギーまで求めるようになったという背景があります。したがって、原子力発電の安全性を高めることも必要ですが、地球環境へ配慮しつつ豊かさについて考えることが大切です。

物質工学科2年生と見学した志賀原発では、福島第一原発の事故を反省して、災害などに対するさまざまな安全対策が講じられていました。

高専にはエネルギーはもとより、社会基盤を支える様々な人材の育成が期待されています。学生の皆さんには、本校でしっかり知識と技術を学び、そして、これらに誠実さを兼ね備えて、誰かのために力を尽くせる人になっていただきたいと思います。それは、皆さん自身が、これから先出会う、色々な試練や苦難に対峙した時、「より善く生きるために」です。

本日のお話は以上です。後期の勉強も頑張りましょう。



水素爆発した福島第一原発1号機建屋(左)と、放射線を除去した処理水(右)
(2022. 9. 16 福島第一原発廃炉処理現場にて)